

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が 自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校の学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」である。この目標設定をするにあたり、教職員で話し合いを持ち、「いきいきしている」を別の言葉で表現するとどんな言葉になるのかを考えた。その結果、最も多かった言葉が、「笑顔」「元気」「楽しい」の 3 つであり、これらの言葉をキーワードとすることにした。また、それ以外の「言葉」もなかなか分けすることによって、3つの「めざす子どもの姿」を設定した。

一つ目は、「自分も人も大切にする子ども」（「思いやり」「自信」「自分が好き」「自尊感情」）であり、二つ目は、「自分で考え、行動する子ども」（「自分らしく」「主体的」「自分の言葉で語る」）であり、三つ目は「自分からチャレンジする子ども」（「夢」「目標」「あきらめない」「やりがい」）である。

こうした「めざす子どもの姿」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。なかでも、「安全対策」については「子どもの命を守ることを最優先課題として取り組んでいく。また、「学力向上」については、「わかる・できる」＝「楽しい」の原点を肝に銘じて、日々の授業力向上に取り組んでいく。「体育的活動」については、健康であること第一として、運動能力がバランスよくなるように日々の体力向上に取り組んでいく。「読書活動」については、「本は財産」と言われるごとく、児童にとっての貴重な経験の場になるため、数多くの本にふれることのできる活動に取り組んでいく。

そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する」ことである。「自己肯定感」や「自己有用感」をもつことはとても大切な課題である。「授業を開く」や「地域を開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ①令和7年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ②令和7年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ④令和7年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和7年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和7年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.5ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ①令和7年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和7年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を90%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標

- ①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- ①令和4年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和4年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ③令和4年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする
- ④令和4年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- ②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。
- ③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- ①令和4年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ②令和4年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より0.2ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ①令和4年度末の学校アンケート調査の「毎日の授業の中でICT機器を使われているとわかりやすいですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②ゆとりの日の設定を毎週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては2日以上設定する。

### 学校園の年度目標

- ①令和4年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- ②令和4年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を80%以上にする。
- ③令和4年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にすることが目標であったが、75.6%であった。肯定的な割合だと96.5%であったが、最も肯定的な回答となると目標に到達できなかった。より一層継続的ないじめに対する指導が必要である。
- ・情報の発信については、ホームページのアクセス数は3月2日現在、29199アクセスであった。目標の24000件を1月末で達成できていた。昨年度より大幅の伸びで、保護者の関心と認知度が高くなっている。
- ・安全対策については、年3回、不審者・火災・地震（津波）の避難訓練、年1回の地域防災訓練を実施するなど、児童の安全対策をよりよいものにするべく行ってきた。学校関係者アンケートの評価は目標90%以上に対し、94%が「安全対策に努力している」との問い合わせに肯定的な回答をしている。今後も児童の安全対策について様々な意見を聞きつつ見直しを継続するとともに、安全に対する意識を高める活動を進めていく。
- ・学力向上については、意欲的に算数科に取り組む子どもを目指して、見通しをもって「数学的活動」に取り組み、基礎基本の定着を図ってきた。「学習アンケート」では「問題を解く前に、どうやったら問題を解くことができるか考えることができましたか。」という質問について肯定的な回答は89%で、目標の80%を上回った。さらに基礎基本の学習が定着するための「ドリルタイム」の取り組みも積極的に進めている。今後も各学年の系統性をもって、継続して指導していく。
- ・道徳教育の推進については、目指す子どもの姿である「自分も人も大切にしている」ということについて児童の意識を高める指導に取り組んできた。学級での様々な活動やスマイル班活動、委員会活動等を通して、相手のことを考えて行動する大切さに気づき、意識が高まった。今後も継続的に指導をしていく。
- ・体育的活動の充実については、課題である跳躍力の向上を目指し、年間通しての週1回のなわとびタイムを設定した。1学期と2学期の立ち幅跳びの記録を比べると、目標の4cmを上回り、8cm向上した。体育の学習に「跳ぶ活動」を取り入れるなど、跳躍力向上に力を入れた成果と考える。

## (様式2)

## 大阪市立長原小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいいことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を<u>90%以上</u>にする。</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を<u>前年度より減少</u>させる。</p> <p>③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を<u>増加</u>させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>① 令和4年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<u>80%以上</u>にする。</p> <p>② 令和4年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を<u>85%以上</u>にする。</p> <p>③ 令和4年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を<u>80%以上</u>にする。</p> <p>④ 令和4年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を<u>70%以上</u>にする。</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、日々の児童情報を共有する。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の学校アンケートにおいて「学校は問題が起ったときには迅速に対応している」の肯定的な回答をする割合を<u>90%以上</u>にする。</li> </ul>	<b>B</b>

**取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

- ・道徳教育やキャリア教育、人権を尊重する教育などの実践を行い、自己を見つめ、自己肯定感を高める学習を行う。

指標

- ・年度末の学校アンケートにおいて「自分には良いところがある」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。(65%以下・・・C 80%以下・・・B 81%以上・・・A)

**B**

**取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】**

- ・年3回(不審者・火事・地震(津波))の避難訓練に加え、交通安全指導、集団下校訓練など様々な児童の安全対策を行う。

指標

- ・年度末の学校アンケートにおいて「自分の命は自分が守っている」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・年度末の学校アンケートにおいて「学校は子どもたちの安全対策に努力している」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

**A**

**取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

- ・体験的な出前授業を取り入れ、障がいを持つ人への理解を深め、ちがいをみとめ合える豊かな人間性の育成に取り組む。 (校長経営戦略支援予算)

指標

- ・年度末の学校アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の肯定的な回答をする割合を70%以上にする。(55%以下・・・C 70%以下・・・B 71%以上・・・A)

**A**

**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点**

**全市共通目標 (小学校)**

- ① 目標の90%を14.4%下回っている。

3年(74.1) 4年(84.4) 5年(82.6) 6年(61.1) ⇒ 75.6% (C)

※肯定的な割合で計算すると96.5%になります。

3年(100) 4年(96.9) 5年(100) 6年(88.9) ⇒ 96.5%

肯定的な回答をする児童の割合は96.5%と高いが、最も肯定的な回答をする児童の割合になると90%には至っていないため、今後もいじめに対する継続的な指導が必要。

- ② 不登校児童の在籍比率は前年度より減少している。(A)

- ③ 前年度不登校児童の改善の割合は増加している。(A)

**学校の年度目標**

- ① 目標の80%を5%上回っている。

各学級での活動や行事で、達成感や充実感を味わい、学校が楽しいと感じる児童が増えた。(A)

- ② 目標の85%を10%上回っている。

計画的な各種訓練や集団下校、児童朝会等での呼びかけや毎日の手洗いや消毒等により児童の安全への意識は高い。(A)

- ③ 目標の80%を1%下回った。

児童の良いところをさらに褒め、自尊感情を高めていく必要がある。 (B)

- ④ 目標の 70%を 24%上回っている。

日々の指導による意識づけや体験学習により、自分も人も大切にする気持ちがそだつた。 (A)

**年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標**

- ① 目標の 90%を 2 %下回っている

「全児童確認ボード」の活用や児童理解全体会等で児童の実態把握はかなりできてきたが、日々の細かな情報共有が今後の課題である。 (B)

- ② 目標の 80%を 1%下回っている。

様々な実践を行うことにより意識が高まった。その後の取り組みにつなげ、深めていく必要がある。 (B)

- ③ 目標の 80%を 15%上回っている。目標の 90%を 4%上回っている。

「地域防災訓練や避難訓」練の計画的実施、日々の継続的な指導、コロナ禍でのマスクの着用や消毒の徹底により児童の安全への意識は高い。 (A)

- ④ 目標の 70%を 24%上回っている。

出前授業や体験的な学習をはじめ、日頃からの取り組みにより、違いを認め合える児童が増えた。 (A)

(様式 2)

大阪市立長原小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話しあうかつどうを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>50%以上</u> にする。</p> <p>②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も <u>前年度より 0.2 ポイント向上</u> させる。</p> <p>③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u> にする。</p> <p>④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>70%以上</u> にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① 令和 4 年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <u>70%以上</u> にする。</p> <p>② 令和 4 年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、<u>前年度より 0.2 ポイント向上</u> させる。 ※全国平均を 1 とした時の割合</p>	C
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況

取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・算数科を研究教科として、 研究主題（「意欲的に算数科の学習に取り組む子どもを目指して」）に迫るべく、 「基礎基本の定着を図るための指導と評価の一体化」を副題に、見通しをもって 学習に取り組む工夫を各学年や個に応じて図る。	A
--	---

**指標**

- ・算数の学習アンケートで「問題を解く前にどうやったら問題を解くことができるか考えることができましたか」の問い合わせに肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

**取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】**

- ・週1回のなわとびタイムを1年間通して実施したり、体育の授業で跳躍力を高める活動を取り入れたりすることにより跳躍力を向上させる。

**指標**

- ・1学期（5月のスポーツテスト）と2学期、に立ち幅跳びの記録をとり、5月のスポーツテストの記録に比べて平均値を4cm向上することを目標とする。

**A**

**取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

- ・習熟度別学習を3年生以上の国語科と算数科で実施し、習熟度別学習の効果を高めるために、中学年の学習室に大型液晶モニターを設置する。  
(校長経営戦略支援予算)

**指標**

- ・年度末の学校アンケートにおいて「習熟度別学習はわかりやすいですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

**A**

**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

**全市共通目標（小・中学校）**

- ① 目標の50%を21.6%下回っている。

3年(40.7) 4年(37.5) 5年(8.7) 6年(30.6) ⇒ 学校(29.4%) (C)

※肯定的な割合で計算すると80.9%になります。

3年(85.1) 4年(81.3) 5年(73.9) 6年(83.4) ⇒ 学校(80.9%)

肯定的な割合では80.9%と高いが、最も肯定的な割合では50%に至っていない。

- ② 6年は算数で6.2P、4年は国語で5.0P向上したが、その他は前年度より下回っている。

令和4年度経年調査 国語 4年5.0P↑ 5年8.7P↓ 6年4.2P↓  
算数 4年9.5P↓ 5年6.1P↓ 6年6.2P↑

※今年度は算数科の研究授業を実施し、6年生では一定の成果が見られた。4年では国語科で前年度より学力の向上が見られたがその他は前年度を下回った。それぞれの課題を追求し今後も学力向上を目指して取り組んでいく必要がある。 (C)

- ③ 目標の80%を1.9%下回っている。

3年 (92.6) 4年 (87.5) 5年 (73.9) 6年 (58.3) ⇒ 学校 (78.1%)

今後はALTとの打ち合わせをさらに深め、魅力ある授業を実践していく必要がある。(B)

- ④目標の70%を10.8%下回っている。

3年 (59.3) 4年 (62.5) 5年 (56.5) 6年 (58.3) ⇒ 学校 (59.2%) (C)

※肯定的な割合で計算すると80.6%になります。

3年 (77.8) 4年 (84.4) 5年 (82.6) 6年 (77.7) ⇒ 学校 (80.6%)

肯定的な割合では80.6%と高いが、最も肯定的な割合では70%に至っていない。ここ数年コロナ禍で運動する機会も少なくなってきたので、今後も感染症対策を講じながら運動機会を設けていく必要がある。

#### 学年の年度目標

- ①目標の70%を17%上回っている。

児童朝会や朝の会、道徳の時間等で確認したり、学期ごとに三つの力の中から目標設定をしたり、意識して行動できるよう声かけをしたりすることで、できる児童が増えていくように感じる。継続してこれらの取り組みを行っていく。(A)

- ②目標を大きく下回っている。

令和3年度 令和4年度

男子 0.994 ⇒ 0.924 7.0↓

女子 0.99 ⇒ 0.768 22.2↓ (D)

#### 年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標

- ①目標の80%を9%上回っている。

授業実践等、校内研究に取り組むことができ、その成果が表れている。校内研究の成果については継続し、新たに出てきた課題については、今後、取り組んでいく必要がある。(A)

- ②目標の4cmを4cm上回っている。

体育学習時のなわとびの導入や毎週水曜日のなわとびタイムの実施により、跳躍力が高まった。今後も継続指導していく。(A)

- ③目標の80%を9%上回っている。

習熟度別授業を行うことで個に応じた支援、学びができており、児童は自信をもって学習に取り組むことができている。しかし、習熟度別学習が実施できていない学年があるため、今後も継続して個に応じた支援、学びができるよう取り組んでいく必要がある。(A)

## (様式 2)

## 大阪市立長原小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <p><b>【ICT の活用に関する目標を設定する】</b></p> <p>①令和 4 年度末の学校アンケート調査の「毎日の授業の中で ICT 機器を使われているとわかりやすいですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <u>70%以上</u> にする。</p> <p><b>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</b></p> <p>②ゆとりの日の設定を毎週 1 回設定する。学校閉庁日については、<u>夏季休業期間中は 3 日以上</u>、<u>夏季休業期間以外の休業期間においては 2 日以上</u> 設定する。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>① 令和 4 年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。</p> <p>② 令和 4 年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を <u>80%以上</u> にする。</p> <p>③ 令和 4 年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u> にする。</p>	<b>A</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校一斉の読書タイム（仮称「本につかる朝」）を毎週金曜日の朝学習として実施し、子どもたちがいきいきと読書を楽しむ環境をつくる。</li> </ul>	<b>A</b>
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の学校アンケート調査の「読書タイムは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u> にする。</li> </ul>	<b>A</b>

取組内容②【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・コロナ禍で可能な限りの連携を図りながら、学校からの情報を、「学校だより」や「学年だより」「学校ホームページ」等で発信し続ける。

A

指標

- ・本年度の学校ホームページのアクセス数を前年度の 10%増（24000 件）とする

取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等の連携・協議した教育の推進】

- ・学年に応じた「体験活動」（3年「今昔館」4年「大阪市立科学館」5年「朝日新聞社」6年「ピース大阪」「大阪歴史博物館」等による体験や見学を通じて、キャリア教育の充実や情操豊かな心を育てる。

A

指標

- ・年度末の学校アンケート調査の「体験学習や社会見学で積極的に学習ができましたか。」の項目について肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。  
(校長経営戦略支援予算)

取組内容④【基本的な方向 6 教育DXの推進】

- ・1人1台端末の環境を活かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを行う。

C

指標

- ・年度末の学校アンケート調査の「毎日、学習者用端末を操作しましたか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点

全市共通目標（小・中学校）

- ① 目標の 70%を 17%上回っている。

デジタル教科書やタブレットPC、書画（カメラ等、効果的に活用することができている。継続してICT機器の効果的な活用を行っていく。（A）

- ② 目標を概ね達成できている。

学校閉学日の増加により、積極的に心身を休めようという意識が向上した。ただ、週1回のゆとりの日についてはあまり活用できていないので会議や研修が入る場合は別日に設定する。（A）

学年の年度目標

- ① 前年度の割合より 0.7%下回っている。

4年（81.3→93.8）5年（73.9→56.5）6年（94.1→83.3）学校（80.4→79.7%）

校内のアンケートでは 85%と高いが、今後も継続して児童が読書を楽しめるような環境整備等の取り組みをする必要がある。（B）

- ② 目標の 80%を 17%上回っている。

毎月の学校だより、学年だよりや毎日のホームページ更新や行事予定の追加・変更等、保護者に対して情報を発信している。（A）

- ③ 目標 80%を 4%上回っている。

児童朝会や朝の会等で確認したり、意識できるよう言葉かけを行ったりしているた

め、チャレンジしようとする児童が増えているように感じる。継続してこれらの取り組みを行っていく。(A)

**年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標**

- ① 目標の 80%を 5%上回っている。

本につかる朝、おはなししたからばこ、昼休みの貸し出し、地域図書館からの団体貸し出し等、読書環境を整えることができている。継続して児童が読書を楽しめるよう環境整備や本の読み聞かせ等の取り組みを行っていく。(A)

- ② 目標の 24000 件を 1月末で達成している。

学校だよりや学年だより、学校ホームページ等を通して各学年の取り組みや学校行事、連絡事項等を保護者や地域に発信できているが、もっと多くの教職員が地域に情報発信できればさらなる学校理解へつながる。(A)

- ③ 目標の 80%を 5%上回っている。

体験学習や社会見学は児童が楽しみにしており、積極的に学習に取り組む様子が見られたが中間評価に比べると少し評価が下がっているため、1年間を通して今後も継続して本物との出会いの体験の場を創造していく必要がある。(A)

- ④ 目標の 80%を 5%下回っている。

低学年では、操作面や時間確保の難しさ、高学年では、情報モラルやルールが徹底できず、毎日使用することができていない。今後、全体で学習活用端末を使用するにあたってのルール統一を図ったり、フィルタリング等、児童の使用制限をかけることができるよう改善要請したり、効果的な模索したり、伝達し合う機会を作ったりしていく必要がある。(C)